

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社めぐみ	代表者	坂本慎吾	法人・事業所の特徴	利用者個別の状況に応じ、通所、訪問、宿泊を組み合わせた柔軟な支援を行っている。 自宅を改造し、地域の中で家庭的な雰囲気での支援を行っている。 利用者だけでなく、地域の方々にも気軽に相談できる場所として運営を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護めぐみ	管理者	大森裕志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	1人	人	人	人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>① 新規契約の方は、契約1か月以内の支援時の様子を写真に撮り、家族に渡すこととする。</p> <p>② 「興味・関心チェックシート」を導入。利用者の現状や意向を担当者が分析し、介護計画評価時、介護計画作成時に活用する。</p> <p>③ 本人、家族のやり取りの中で聴取した以前の暮らしや「～したいこと」を記録する。それを担当者は月評価の際にフェースシートに記入する。</p> <p>④ 真穴地区以外で、独居等で地区の方の支援が必要な場合は民生委員など地区の方と相談する</p> <p>⑤ 現在でも柔軟な支援を行っている。継続していく。</p> <p>⑥ 地域から研修・会議参加依頼があった時は積極的に参加する</p>	<p>① 計画策定した平成30年7月以降新規契約した方は再契約の方も含め、12例。そのうち利用開始間もなく誕生会を迎えたI氏、K氏については実施できた。</p> <p>② 3～6か月に1度評価しその後本人とチェックシートを使って～したいを探っているがチェックシートの設問が利用者の状況と合っていない。</p> <p>③ 月評価時、毎月はできなかったがモニタリングの時など拾えた情報はフェースシート内に「過去の暮らし」という欄を設け記載している。</p> <p>④ ・真穴地区以外の方で民生委員との協力が必要な事例がなかった。</p> <p>⑤ 日程、予定、時間割に縛られていない柔軟な支援ができていく。</p>		<p>① 再度新規契約の方は、契約1か月以内の支援時の様子を写真に撮り、家族に渡すことを目標とする。</p> <p>② 興味関心チェックシートに代わる利用者の希望を確認するシートを利用し担当者を中心に情報を収集し支援に活用する。</p> <p>③ 新たに興味関心シートを設定し活用。そこで知りえた情報をフェースシートに記入し利用者の情報を収集する。</p> <p>④ 独居等で地区の方の支援が必要な場合は民生委員など地区の方と相談する</p> <p>⑤ 現在でも柔軟な支援を行っている。継続していく。</p>

	<p>⑦ 運営推進会議の日に入浴か訪問になった職員は参加する。</p> <p>⑧ サービスの質の向上を図るためマニュアルの見直しを行っていく。各職員が持ち回りで講師となり職員会議内での講習会を開催する。</p> <p>⑨ 利用者の行動を制止する際は離れたところから行わず近くに寄ってから行う</p>	<p>⑥ 地域社協の会議には福祉介護施設として参加。他地区での公民館での講演会に参加したり講師依頼があり受けた。会議には管理者が出席している。</p> <p>⑦ 平成 30 年 7 月～令和元年 5 月の間は平成 31 年 1 月のみ職員参加できず。他の月は職員が参加できている。</p> <p>⑧ 持ち回りの講師となり講習会を行うことができなかった。マニュアルの見直しが全くできてなかった。</p> <p>⑨ 概ねできているが、行動を制止する際に離れたところから行い、声が大きくなっている様子が散見される。</p>		<p>⑥ 地域から研修・会議参加依頼があった時は積極的に参加する</p> <p>⑦ 運営推進会議への職員の参加は継続し議事録を家族や推進委員に配布する。</p> <p>⑧ 職員会内で研修報告のない人は 1 人 5～10 分程度の自己研修発表を行う。</p> <p>⑨ 利用者の行動を制止する際は離れたところから行わず近くに寄ってから行う。</p>
B. 事業所の しつらえ・ 環境	<ul style="list-style-type: none"> ・面会者、来所者には駐車した場所を確認する。 ・可能なら曲がり角に看板を設置する ・相談ごとなどは 1 階か 2 階の和室で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面会者については、常に確認し路地に止めた時は公民館裏などへ移動をお願いした。 ・曲がり角への看板の設置は他者の敷地であり困難。 ・相談ごとは玄関口ではなく、屋内で行うようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めぐみの入口がわからなくていつも迷っている。 ・もう少し明るい方がいい。 ・季節の花がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・めぐみまでの案内図を駐車場の看板に掲示する。 ・公式ブログに地図を掲載する。
C. 事業所と地域 のかかわり	<p>今のまま地域との関わりを保つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区長、消防団長など改変時期は気にしておき、適宜相談できる関係を維持していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団には代表者が参加している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1、いつも気持ちのいい返事がかえってきます。 2、真網代では当事者以外は知られていない。 3、真網代ではまだそこまでっていない。 4、穴井のイベントにスタッフの人によく出会います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・真網代地区での周知を図る。その為に J A に配布物など置いてもらえるよう依頼する

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今のまま地域の中で活動していくのを維持してほしい。		1、真網代と違って穴井は平地なので散歩など出かけやすいと思います。 3、イベント時によく出会います。 4、真網代では知ってる人は少ないのでは？	・同上。真網代地区でめぐみについて周知を図っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の形態としてはこのまま維持してほしい。 ・地元の民生委員の増員を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・穴井地区の民生委員、真網代地区の民生委員それぞれ3人ずつ会議に参加していただけるようになった。 ・会議で話題になった人が支援に繋がり、地域での生活を送れているという事例が増えてきた。このような情報交換が行われていくことが望ましい。 	1、委員になって初めて知ることが沢山ありました	・事業所からの報告だけに留まらず、地区の中で心配な方などが話題になる現在の形を維持していく。
F. 事業所の防災・災害対策	防災計画検討時は消防団との連携を密に作成していく	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の検討は行えなかった。 ・地区の避難訓練は積極的に参加し、地区の方の協力を得やすいよう図っている。 	4、一人暮らしの人が予報をみて皆と一緒に過ごす事は安心につながります。	・穴井地区の利用者名簿を消防団に渡し、誰が何曜日に自宅にいるのか周知する。
自由意見			<ul style="list-style-type: none"> ・親を看る立場から見てもらう立場になりました。立場が入れ替わってみると考え方が違っていたと気が付きました。又、事業者に対してもあずける立場と受け入れる立場も色々問題があると思います。短い期間でしたが両方に携わる事ができて勉強になりました。 小さな事業所ならではの良さがあり、日々努力・実践されており、これからも地域に愛され、必要とされる場所であるよう願っています。 	